

講演

リスクアペタイト・フレームワークとストレステストについて

金融庁検査局企画官 内田 善彦

日本アクチュアリー会 CERA 研修講演

2016年12月2日 日本アクチュアリー会大会議室

内田 金融庁の内田と申します。私自身は日本銀行の人間で、現在は、日本銀行から金融庁へ出向しています。したがって、今まで銀行・証券に関する仕事をしています。このため、今日の話も銀行業界の話を枕に作った資料です。もっとも、ほとんどの部分は保険会社の方にとっても、必要な部分を適宜読み替えて頂ければ、参考にして頂ける部分は少なくないと考えています。私自身は、株式会社であろうが相互会社であろうが特に問題なく読み替えられると考えております。なお、本日の内容は私個人の見解に基づくもので、金融庁または日本銀行の公式見解を示すものではない点、あらかじめ申し添えます。

今日のタイトルは「リスクアペタイト・フレームワークとストレステストについて」です。金融危機後、保険業界でも、銀行業界でも、証券業界でも、これらの語がよく使われるようになりました。ただ、既にファームワイド・リスクマネジメントなりエンタープライズワイズ・リスクマネジメントという語がある中で、なぜリスクアペタイト・フレームワークなのでしょう。リスクアペタイトという言葉も実は1990年代後半から金融実務に関する語として存在していた言葉ですし、ストレステストに至ってはバリュー・アット・リスクよりも前からあった語なのに、なぜ最近この二つが注目されているのかについて、私なりに考えていることを、お話したいと思います。